

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

郷原中学校区 校番 6 学校名 郷原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学び	主体的に学ぶ児童の育成	<p>書</p> <p>○基礎学力の定着</p> <p>○表現力の向上</p>	<p>○学期末テスト(国語科・算数科)では、単元テストの正答率80%以上の児童の割合が1学期は国語科51%・算数科52%であった。2学期は国語科75%・算数科54%であった。国語科はすべての学年で1学期より2学期の方が上回った。しかし、算数科は下回る学級があり、伸び率も低かった。どの学年でも、特に算数科では学力差が大きく、基礎学力の定着に課題のある児童が少なくない。</p> <p>○総合・生活科の単元の終わりの振り返りの分析を行った結果、質の高まった振り返りを書くことができた児童の割合は51.8%であった。また、振り返りの記述量が増加した児童の割合は89.1%であった。結果は学級差が大きくなった。振り返りの指導方法や、書く時間の違いが現れたようである。自分の考えを整理し、言語化する振り返りの充実がさらに求められると考える。</p>	<p>○チャレンジタイムと城山タイムに学力補充や個別指導を行っている。指導内容を精選して計画に実施しているが、学力調査の結果等を分析し、課題のある領域を中心に系統的な指導を行っている。</p> <p>○表現力向上のためには「表現したくなる場面」を作り出すことが重要である。「書き方」を指導するだけでなく、学習の導入や発問、指導方法や指導内容を充実させることが重要である。授業改善に取り組むとともに、地域の方や他学年に向けて「書く」「話す」機会を増やし、目的意識を持って主体的に表現する場を計画的に設けていきたい。</p>
豊かな心	人との関わりから学ぶ児童の育成	<p>○礼儀・規範意識を身に付けた児童の育成</p> <p>賞</p> <p>○ふるさと郷原を愛する児童の育成</p>	<p>○郷原っ子7つのスタンダードを「守れている」と肯定的に回答した児童は、上半期と同じ83%であった。多くの児童は、きまりを守ろうと意識している。同じく児童アンケートで郷原っ子7つのスタンダードのうち「廊下歩行を守れている」という児童が少なかった。教職員のアンケートでも、7つのスタンダードのうち徹底できていないものが「廊下歩行」と挙げられた。児童、教職員どちらも「廊下歩行」について課題と考えている。</p> <p>○下半期は上半期と比べ達成値が10%増加した。これは、実際に地域に出て学習した体験やそれらを実践する経験を経て、郷原地区のよさに触れることができたことが要因であると考えられる。</p> <p>○子供達は、郷原地区のよさについて「城山や黒瀬川等シンボルとなるものもあり、自然が豊か」「地域の方と一緒に学習できる」と回答した。これは、これまでの学習の積み重ねや地域の方とのつながりを大切にしているからだと考えられる。</p>	<p>○引き続き全校朝会や放送を活用して児童に呼びかけを行っていく。また、6年生から5年生への引継ぎを確実にを行い、新年度に向けて、委員会活動等で児童主体の取組を進めていく。また、各クラスの取組を紹介することで、クラスごとの指導の差異が出ないようにしていきたい。</p> <p>○今後も地域の人材を積極的に活用し、学校と地域とのつながりを大切にしていける。また、児童にも行事や学習内容と関連付けて、郷原地区のよさをアピールしていく。</p>
健やかな体	自らの健康を考えて安全に行動できる児童の育成	<p>○進んで健康・体力づくりに努める児童の育成</p> <p>○自分の命は自分で守ろうとする児童の育成</p>	<p>○全学年の新体力テストの県平均値が令和元年度以降公表されていないので、令和元年度との比較を行った。</p> <p>①50m走の平均値が県平均値より上回っているのは、1年男女、2年女子、4年男女である。</p> <p>②長座体前屈の平均値が県平均値より上回っているのは、1年女子、3年男女、4年男女、5年男女、6年男女である。</p> <p>③ソフトボール投げの平均値が県平均値より上回っているのは、1年男女、2年女子、3年男女、4年男女、5年男子、6年女子である。</p> <p>特に課題があるのは、50m走である。1学期に実施した記録より落ちている学年もある。長座体前屈とソフトボール投げに関しては、記録が向上した。</p> <p>○「呉市防災教育カリキュラム」に基づいた授業の実施率は100%であった。教職員が年間で行える単元を計画し、実施したらチェックすることでやり残しを無くした。</p>	<p>○くれチャレンジマッチスタジアムへの参加率はまだ低いので、年度当初から呼びかけをしていく。</p> <p>○体力づくりの宿題でコーディネーショントレーニングや50m走の記録が向上するトレーニングをこれからも取り入れていきたい。</p> <p>○今後も防災に関して取り入れられる単元を積極的に開発し、取り残しが無いようチェックをしていく。</p>

業務改善	教職員が意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	<p>○児童と向き合う時間の確保</p> <p>○長時間勤務の削減</p>	<p>○年間を通してSSS(スクール・サポート・スタッフ)による業務支援を受けることができたことは、職員の業務改善に一定の効果があった。</p> <p>○今年度は、コロナ前に実施していた行事をできるだけ元に戻してきたが、コロナ対策を施すため事前の計画・準備から時間をかけるという現状であった。そのため、下半期「児童と向き合う時間の確保ができていいる」と感じる教員の割合は60%で、上半期に比べ低下した。(指標:75%)</p> <p>○9月から1月までの時間外勤務45時間以下の職員の割合を平均すると、60%にとどまっている。(指標:85%)</p>	<p>○OSSSの要望は、来年度も続けていく。</p> <p>○会議における検討内容等については、各分掌部会でしっかり練った後起案に上げることで、会議の効率化を図っていく。</p> <p>○スクラップ&ビルドの考え方から、スクラップできる事項を各分掌部会で積極的に挙げ、縮小・削減していく必要がある。</p> <p>○放課後の業務時間については、生徒指導に係る連携の必要性が高まったため、時間外勤務45時間以上の職員が増えた。「学習指導と生徒指導を一本化した授業づくり」等の職員研修を、今後も続けていく。</p>
------	------------------------	---------------------------------------	---	--